KIORITZ

取 扱 説 明 書

iスタート 背引式
共立背負動力噴霧機
SHR15B
SHR10B

⚠ 警 告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

2002/9

はじめに

ご挨拶

・共立背負動力噴霧機をお買い上げいただき、ありがとうございます。

用途

・この噴霧機は、軽量・小型に製造された２サイクルエンジン付噴霧機です。

・この噴霧機は家庭用・農業用などの薬液噴霧に使用するものであり、目的以外に使用しないでください。

・機械を改造しないでください。

・整備不良の機械や、改造した機械は危険ですので使用しないでください。

本機の特徴 ； iスタート 背引式

・iスタートは、エンジンの始動時、スタータを引いたときの回転力がバネを介してクランク軸に伝わるため、ケッチンを感じることなくスムーズに始動することができます。
エンジンの始動は、スタータを素早く引かなければなりませんが、iスタートならそれが容易にできます。

・iスタート背引式は、背負ったままでもエンジンを始動することができます。

取扱説明書について

・この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。
説明をわかりやすくするため、使用しているイラストは現品と異なる場合があります。

・単位はＳＩ単位（国際単位系）を使用しています。
（　）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。

・この取扱説明書は、いつでも読めるように必ず保管してください。
この取扱説明書が損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から新しく取扱説明書を購入してください。

貸与、譲渡

・この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。
製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。

おことわり

・本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。

・本製品は一部部品の組立作業が必要となります。

・ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

目　　次

はじめに 2
警告表示マークの意味 3
各部の名称 4
　各部の名称とその機能 5
組立 6
　ホースとノズルの組立 6
　背負バンドの調整 6
正しい作業のために 7
　作業者の体調 7
　保護具 7
　薬液 8
操作方法 9
　燃料の取扱い 9
　エンジンの始動と停止 １０
　噴霧作業 １３
点検・整備 １４
　整備の目安 １４
　点検要領 １４
故障診断と対策 １７
保管 １８
　長期保管（６０日間以上） １８
仕様 １９

⚠ 注　意

スタータグリップを引いてから、遅れてエンジンが始動する場合がありますので、ご注意ください。

重　要

- **iスタート**は、滑らかにリコイルが引けるスタータです。
- **スタータグリップが軽く引けない場合や、スタータグリップを引いてもエンジンが始動しない場合は、スパークプラグを外してください。更にリコイルを引いても重いときは、エンジン内部の故障ですので、そのままお買い求めの販売店へご相談ください。**

iスタートリコイルスタータ分解禁止
スタータグリップが軽く引けない場合は、スタータ内のバネが巻き込まれた状態ですので、スタータケースを外さないでください。

警告表示マークの意味

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重　要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する重要な注意事項です。

- **この取扱説明書で解説されている機械には、下表の「警告表示ラベル」が貼付してあります。ご使用前にラベルの意味を理解してください。**
- **万一、ラベルが摩滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、「各部の名称」に指示してある箇所に貼り、常にラベルが読める状態を維持してください。**

警告表示ラベル

⚠ 警　告

排気ガスに注意

室内（ハウス等）および換気の悪い場所での運転は排気ガスが充満し、人体に有害です。

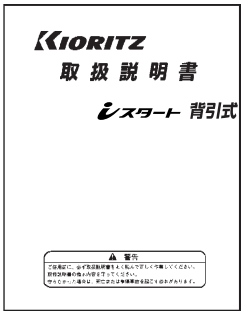
⚠ 注　意

ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。

⚠ 注　意

- **作業中は、かならず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。**
- **農薬をあびるおそれがあります。**
- **使用農薬の取扱説明書を読んで正しく使用してください。**

各 部 の 名 称



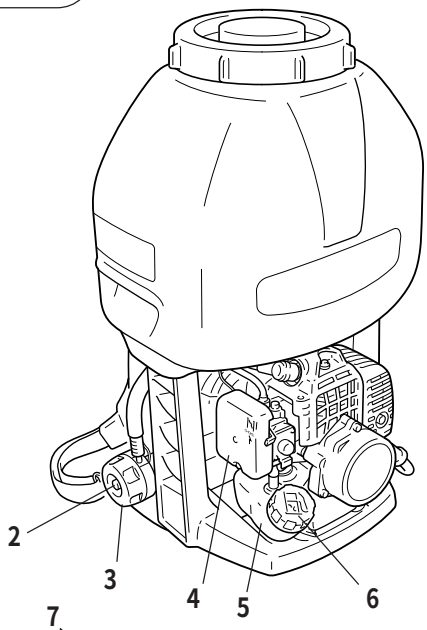
1→

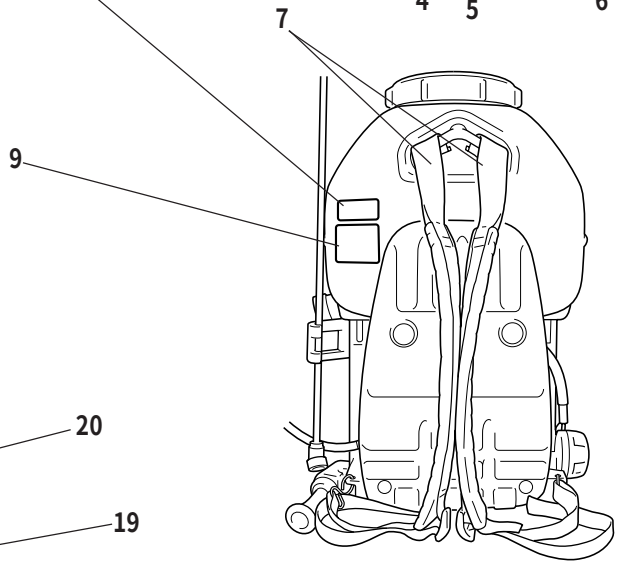
⚠ 注　意

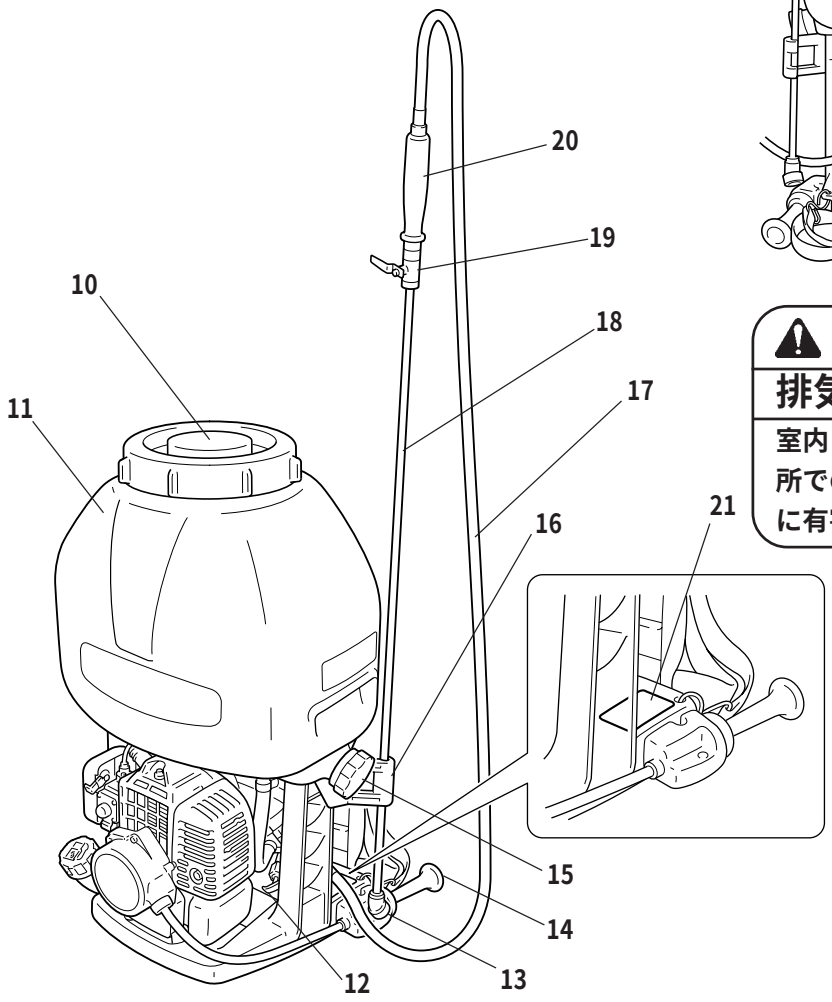
ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。

⚠ 注　意

- **作業中は、かならず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。**
- **農薬をあびるおそれがあります。**
- **使用農薬の取扱説明書を読んで正しく使用してください。**







⚠ 警　告

排気ガスに注意

室内（ハウス等）および換気の悪い場所での運転は排気ガスが充満し、人体に有害です。

各部の名称とその機能

１．取扱説明書	ー 機械をお求めになったとき必ず付いています。 機械を使用する前に必ず読んでください。 また正しい操作方法を再確認する場合に備え、すぐ取出せる場所に、必ず保管してください。
２．ストップスイッチ	ー エンジンを停止するときに押すスイッチです。
３．スロットルダイヤル	ー エンジン回転数を指で調節するためのものです。
４．エアクリーナ	ー エンジンに供給される空気をきれいにします。
５．燃料タンク	ー 燃料を入れる容器です。
６．燃料タンクキャップ	ー 燃料タンクを密封するふたです。
７．背負バンド	ー 作業者が本機を背負う際に使用します。
８．注意ラベル	ー ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
９．注意ラベル	ー 作業中は必ず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。 農薬をあびないように注意してください。 使用する農薬の取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
１０．薬液タンクキャップ	ー 薬液タンクを密封するふたです。
１１．薬液タンク	ー 薬液を入れる容器です。
１２．ポンプドレン	ー 薬液ポンプ内の薬液を排出する栓です。 手を汚さずに薬液を排出できます。
１３．ノズル	ー 薬液を霧化するためのものです。
１４．スタータグリップ	ー エンジンを始動するときに使用します。iスタート 背引式
１５．タンクドレン	ー 薬液タンク内の薬液を排出する栓です。
１６．ノズルホルダー	ー 機械を使用しないとき（格納時、運搬時など）にノズルパイプを固定しておくことができます。 散布作業時は折りたたんでおきます。
１７．ホース	ー 薬液をノズルパイプに送るホースです。
１８．ノズルパイプ	ー 薬液をノズルに送るパイプです。
１９．ノズルコック	ー 噴霧を吐出、停止するコックです。
２０．ノズルグリップ	ー ノズルパイプを操作する握りです。
２１．警告ラベル	ー エンジンの排気ガスは有害です。 屋内など換気の悪い場所で使用しないでください。

組　　立

図１

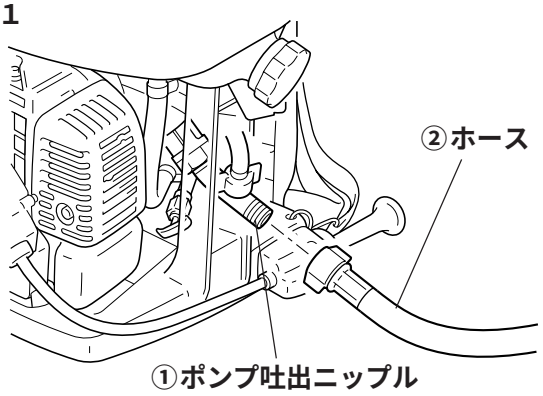
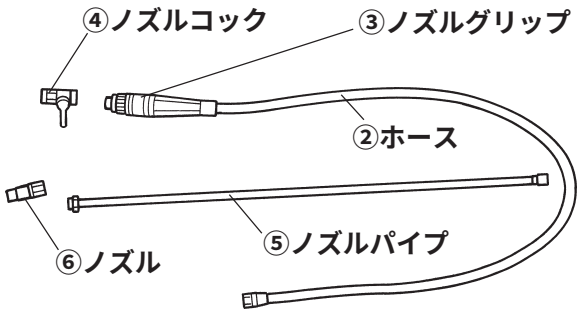


図２

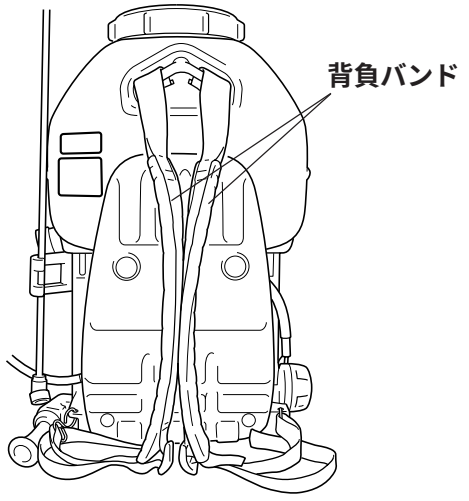


- 機械を改造しないでください。
- 整備不良の機械や、改造した機械は危険ですので使用しないでください。

ホースとノズルの組立

- ①ポンプ吐出ニップルに②ホース、③ノズルグリップ、④ノズルコック、⑤ノズルパイプ、⑥ノズルの順に組付けてください。
  (図１、２参照)
- 組付けが不確実ですと、薬液が漏れ薬害の原因になりますので、充分注意してください。

図３



背負バンドの調整

- 作業しやすいように背負バンドの長さを作業者の体格に合わせてください。

正しい作業のために

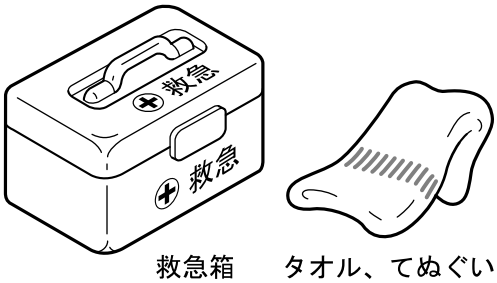
⚠ 警　告

- 機械が不適切に使われたり、あるいは使用上の注意を守らないとき、重大事故を起こす可能性があります。
- 使用する薬液に直接触れることを避けてください。薬液被爆時の緊急処置と同様、薬液の警告、薬液の取扱説明書の注意事項をよく読んでください。
- 機械を運転するときは、適切な衣類と正しい保護具を身に付けてください。

図１



図２



救急箱　　タオル、てぬぐい

図３

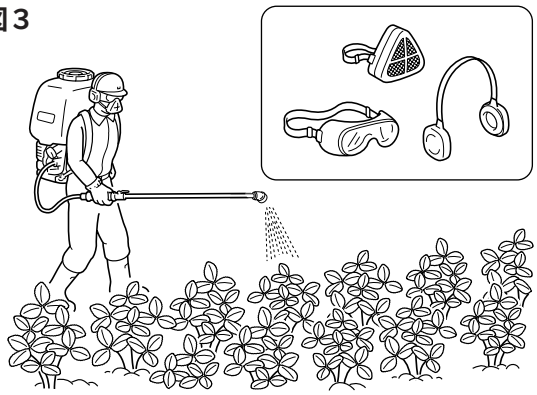


図４



⚠ 注　意

- 機械を操作する人は心身ともに健康でなければなりません。
  子供には使わせないでください。
- 夜間や天候不良などの視界の悪いときは作業をしないようにしてください。

作業者の体調

- 疲れているときは、機械を使用しないでください。もし、作業中に疲れた場合は作業を中断し休憩してください。気分の悪さや疲れが続くようでしたら、医者に相談してください。
- 酒を飲んでいる人、薬物の影響がある人は、機械を操作しないでください。視覚や敏しょう性、判断力に影響をおよぼします。
- 妊娠している人、運転が未熟な人、負傷中などで薬液の影響を受けやすい人は機械を操作しないでください。また薬液に触れないでください。

ケガへの備え

- 万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
  出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。
- 応急手当については、地域の消防署や消防組織（消防団など）で知識、技能の普及につとめていますので、それらの講習、訓練を受け、基本的な知識を習得されることをおすすめします。

保護具

身体を保護する衣服

足や体がむき出しにならない、耐薬品性のある作業衣を着用してください。衣服はボタン、ファスナを完全にし、裾じまりや袖じまりをよくしてください。フリルや飾りヒモは機械などに絡まる原因になります。ネクタイ、だぶついた服、宝石類は着用しないでください。髪の毛は肩より上でまとめてください。

目の保護

目の保護に保護めがね（ゴーグル）を着用してください。日常、めがねを使用している人は、そのめがねの上から保護めがね（ゴーグル）などの目を保護するものを付けてください。

頭部の保護

作業帽または防護頭巾を使用し頭部や首を保護してください。

図１

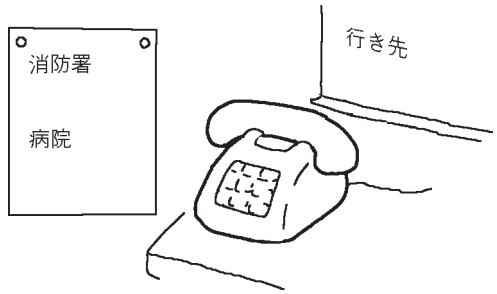
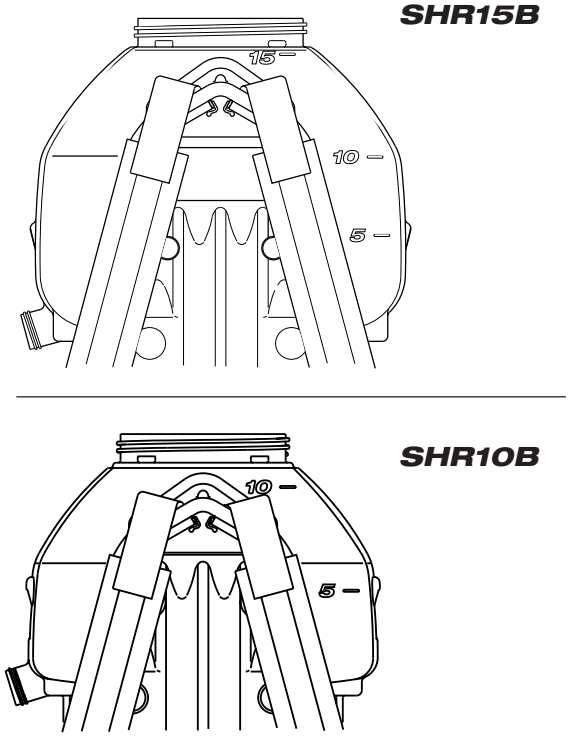


図２



⚠ 危　険

- 薬液に直接触れたり、口にしないでください。薬液には人間や動物にとって極めて有毒なものがあります。薬液の使用を誤ると、重度の中毒症にかかったり、死に至ることがあります。
- 薬液は内容を明記した箱に入れ、子供の手が届かない鍵の掛かる場所に保管してください。誤って飲み込むと死亡する恐れがあります。

⚠ 警　告

薬液ストレーナは常に薬液タンク口に正しく付けておいてください。かくはん水の勢いが強いので、運転作業中、薬液残量が少なくなると、薬液タンクキャップのブリーザ穴から薬液が漏れることがあります。

重　要

薬液タンク内で薬液を、直接調合しないでください。

耳の保護

長時間大きな音を聞いていると聴覚が弱くなったり、聞こえなくなったりする原因となります。耳覆い（イヤーマフ）や耳栓などの聴覚を保護するものを着用して騒音から耳を保護してください。

手の保護

ゴム手袋またはビニール手袋を着用してください。直接薬液に触れないでください。

脚全体の保護

底に滑り止めのあるゴム長靴を履いてください。つま先のあいた靴を履いたり、裸足で機械を使用してはいけません。

身体の保護のためのその他の事項

- 保護用の衣類は汗をかき、疲労を増します。気温が高いときは作業を中止し気温が下がってから作業をしてください。
- 薬液噴霧のときは防毒マスクを着用し、農薬を吸い込まないようにしてください。付属の防除マスクは防毒マスクではありません。
- 万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。
- 単独で作業する場合、どこで作業を行なっているかが他の人にもわかるような方法（黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れなくなった場合の対処として有効です。
- 作業現場には、呼子（笛）を携帯してください。

薬液

- 薬液はタンクからあふれるほどの量を入れないでください。また、薬液がこぼれたときはすぐに拭き取ってください。
- 薬液を取扱う際には、その薬液の取扱説明書に記載されている注意事項と取扱い方法に従ってください。
- 本機や薬液に関する知識を持たない人や子供などが取扱うことがないようにしてください。
- 薬液タンクキャップはしっかりと締め、運転時に薬液が漏れないようにしてください。
- 薬液の容器は薬液の取扱説明書で定められた方法で処理してください。
- 薬液は必ず薬液ストレーナを使用して補給してください。（タンク内のゴミは、ノズルの詰まりの原因となります。）
- タンクの横にあるマークは、各々５、１０、１５Ｌ（***SHR10B***は１０Ｌまで）を示します。（図２参照）

操　作　方　法

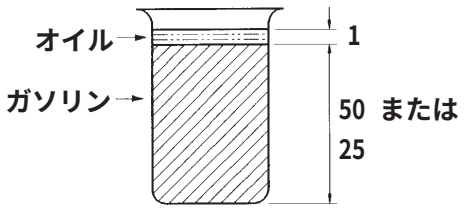
⚠ 警　告

- 引火しやすいので、燃料の取扱いは火災に充分注意してください。
  燃料の補給中にタバコを吸ったり、火花を出したりしないでください。
- エンジンが熱いときや、エンジンを始動したままでの燃料補給は絶対にしないでください。
- 作業中、万一、エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、機械を身体から離し、まず身体の安全を確保してください。

⚠ 注　意

燃料を補給する際はポンプを使用し、機体が安定した状態で給油口からこぼれないように注意して補給してください。
傾斜地では補給しないでください。
機械に燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください。

図１



ガソリン	２サイクルエンジンオイル	
L	mL	
	５０：１	２５：１
４	８０	１６０
８	１６０	３２０
２０	４００	８００

図２

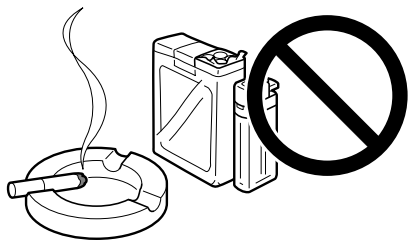
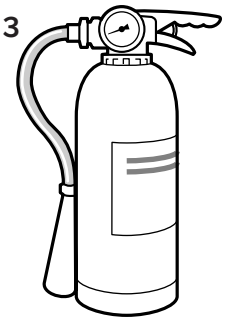


図３



シャベルまたは消火器を用意する

燃料の取扱い

重　要

- 混合燃料の長期保管は劣化しやすいので、燃料は使用する分量だけ混合してください。
  燃料の混合は、機械の燃料タンクで行なわないでください。
- 燃料タンク、燃料タンクキャップ、ブリーザ、燃料パイプなどは使用前に点検し、異常が発見された場合は使用せず交換してください。
- ＪＡＳＯ性能分類：２サイクルエンジンオイルの潤滑性能順にＦＣ、ＦＢ、ＦＡの３種類に分類し表示します。
  共立純正２サイクル専用オイルは「ＦＣ」で、混合比「５０：１」で使用します。

● 本機の燃料にはレギュラーガソリンと、２サイクルエンジンオイルを混合した燃料を使用してください。
  正しくない燃料はエンジン機能不良の原因となります。

● 燃料の混合比は、２サイクルエンジンオイルの種類により下記の通り使用してください。

- 共立純正２サイクル専用オイル ;[５０：１]
  ＪＡＳＯ性能分類　ＦＣ
- ２サイクルエンジンオイル　　;[２５：１]
  ＪＡＳＯ性能分類　ＦＢ、ＦＡ

● ガソリンとオイルの混合はガソリン用の容器を使用し、よく混合してください。

● 自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
  草木などに類焼しないよう注意してください。
  シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。

図１

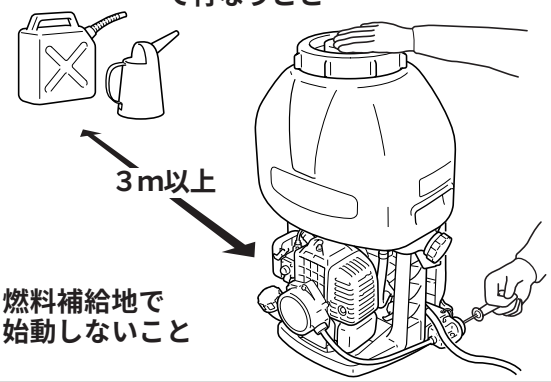
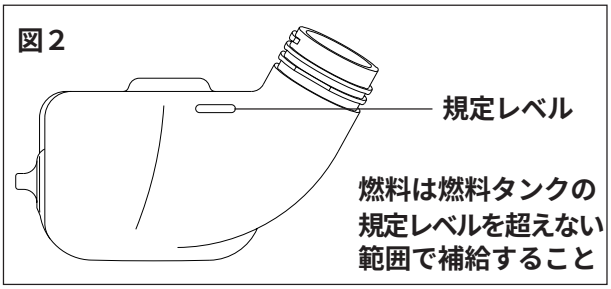


図２



⚠ 警　告

エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。屋内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。

図３

屋内での運転禁止

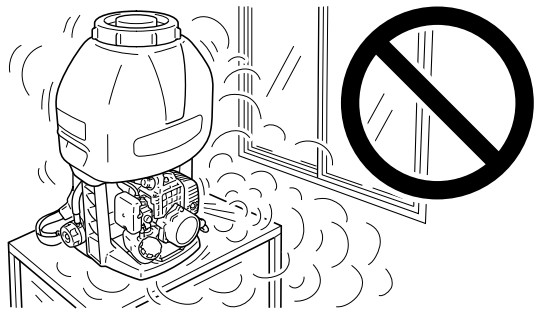
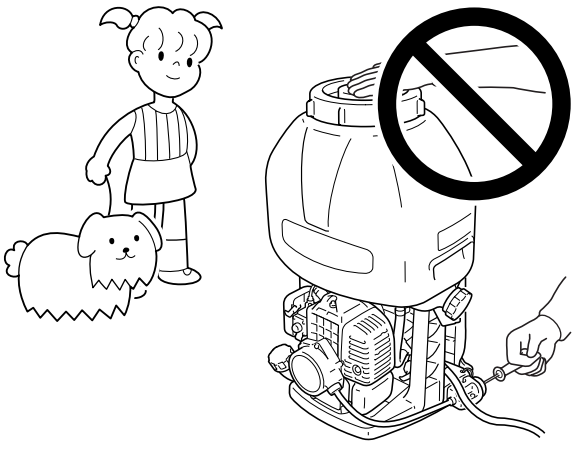


図４



- **燃料タンク内には、外気との間に圧力差が生じています。**
  燃料を補給するときは、燃料タンクキャップをすこしゆるめて、圧力差を取除いてください。
- **燃料タンクに燃料を補給するときは、屋外の舗装されていない地面の上で行なってください。**
  屋内では燃料を補給しないでください。
- **エンジンが熱いときや、エンジンを始動したままでの燃料補給は絶対にしないでください。**
- **燃料は規定レベルを超えて補給しないでください。規定レベルを超えると使用時キャブレタから燃料が漏れることがあり、火災の原因になります。**
- **燃料を補給した後は、燃料タンクキャップを確実に締めてください。**
- **エンジンを始動する前に、燃料を補給した場所から３m以上移動してください。**
- **燃料タンクに燃料が残っている状態で機械をしまわないでください。燃料漏れがあった場合、火災の原因となります。**

エンジンの始動と停止

⚠ 注　意

- **エンジンを始動する前に、ボルトやナット、ネジが締まっているか確認してください。**
  ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。
- **燃料が漏れていないか確認してください。**
- **機械を始動する前に、薬液タンクキャップをしっかり締めてください。**
- **機械の周囲は充分に広くとり、人、動物は近づけないこと。また、障害物がないことを確かめてから始動してください。**
- **背負わずに始動する場合は、機械を地面に置いてしっかりと押えて始動してください。**
- **エンジンが停止しないときはチョークを閉じると停止します。機械を再び使用する前に、ストップスイッチの点検をしてください。**

重　要

- **エンジンを始動する前に、必ず薬液タンクに薬液、あるいは清水を入れます。**
- **本機の防振構造はエンジン、ポンプを防振ゴムで浮かせている構造ですので、エンジン始動時のリコイル操作は必要以上の力を加えず操作してください。**
- **燃料が漏れている場合は、エンジンを始動せずにお買い求めの販売店にご相談ください。**
- **スタータグリップを引くときは、まず軽く引き出し更に素早く引いてください。**
  引き紐の２／３以上は引き出さないでください。
- **スタータグリップを戻すときは、途中で手から離さないでください。**

図1

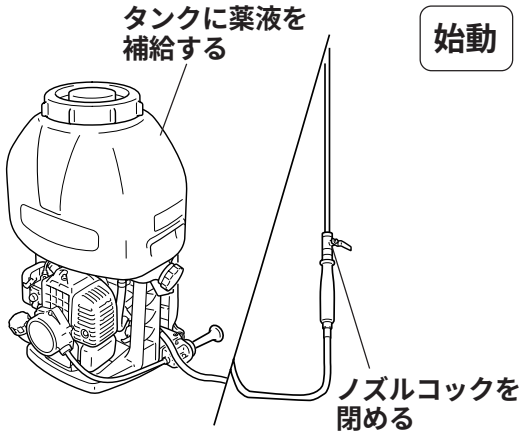


図2

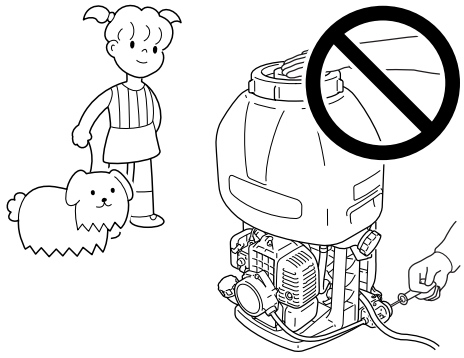


図3

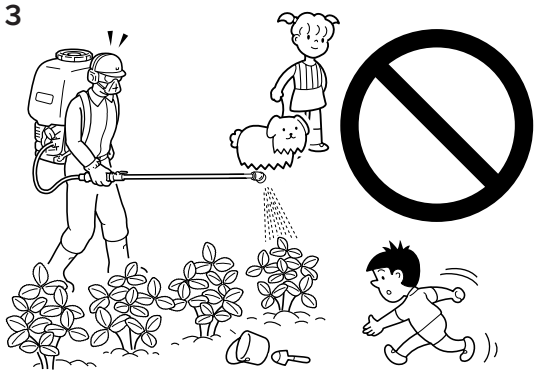
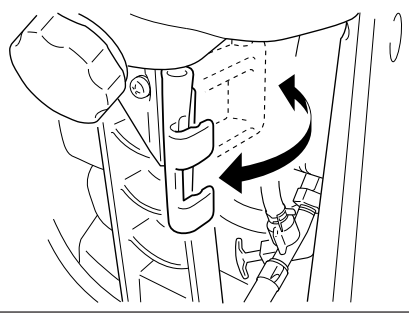


図4



図5



重　要

- **アイドリング（低速回転）に戻さずにチョークストップなどでエンジンを停止すると、故障する恐れがあります。**
- **緊急時以外は必ずアイドリング（低速回転）状態にして停止してください。**
- **薬液がノズルから出なくなったらすぐにエンジンを停止してください。薬液タンクがカラの状態でエンジンを始動しないでください。**

- **この機械は背負ったままでエンジンを始動することができます。**
- **背負わずにエンジンを始動するときは機械を地面に置いてください。**
- **エンジン始動前に薬液タンクに薬液あるいは清水が入っていることを確認し、ノズルコックを閉じてください。燃料パイプが折れ曲がっているときは、エンジンを始動しないでください。**
- **この機械を使用する場所をチェックしてください。傷害や機械を損傷させる障害物は作業する場所から取除いてください。**
- **足場の悪い所ではこの機械を使わないでください。**
- **機械の始動時、また使用時は、その場所に他の人やペットを近づかせないでください。**
- **ノズルを人や動物へ向けないでください。**
- **ノズルグリップは、いつもしっかり握ってください。**
- **この機械を扱う際、高温によるやけどを防止するため、手や体をマフラやシリンダなどの高温部に触れないようにしてください。**
- **整備の良くない機械や自分勝手の改造品を取付けた機械を使わないでください。**
- **全装備での機械操作時は特にバランスを失わないように注意してください。**
- **この機械は、真直ぐに立てた状態で使用するよう設計されており、使用時および運搬時に横にしたり、極端に傾けたりして、薬液が漏れないようにしてください。**
- **夜遅くまたは朝早く近隣の人に騒音で迷惑をかけるときは、この機械を使うことを避けてください。**
- **本機はクラッチ伝達方式です。動力を完全伝達できるエンジン回転数で使用してください。**
- **マフラが、正常に機能していることを確認してください。機械が適切に作動するように、空気吸入部分とエアフィルタもチェックしてください。**
- **作業時はノズルホルダーを折りたたんでください。**

図１

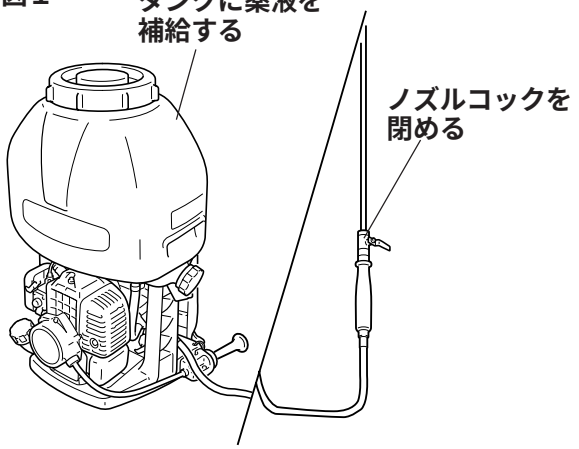


図２

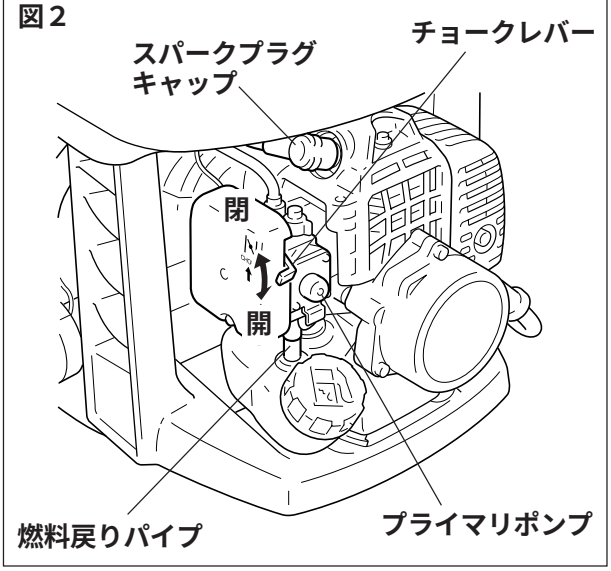


図３

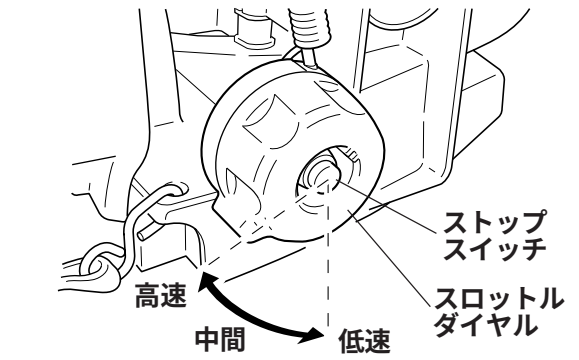
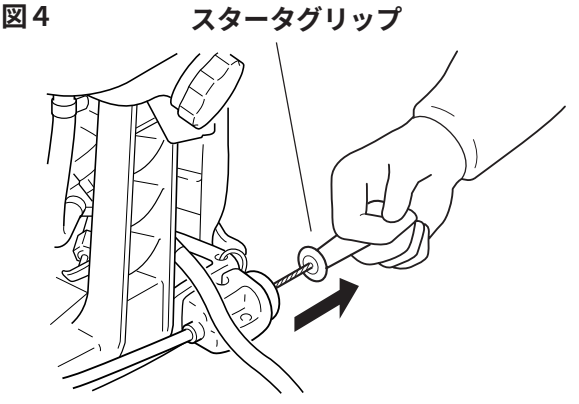


図４



エンジンの始動には、冷えたエンジンの場合と暖まっているエンジンの場合があります。エンジンの状態を確認の上、各々の始動の手順に従って始動してください。順序を間違えると始動が困難になる場合がありますので注意してください。

エンジンが冷えている場合の始動

- 機械を地面に置いてください。
- エンジンを始動させる前に、ノズルコックを閉じてください。（図１参照）
- ポンプの破損防止のため、薬液タンクがカラの状態では、エンジンを始動したり、運転をしないでください。
- チョークレバーを「閉」の位置にしてください。（図２参照）
- スロットルダイヤルを中間位置にしてください。（図３参照）
- プライマリポンプ内に燃料が見えるまで、プライマリポンプをくり返し押してください。（図２参照）
- 吸い込み確認後、機械をしっかり押え、スタータグリップを最初の爆発音がするまで図４の矢印の方向に数回引いてください。
- 爆発音がしたらチョークレバーを「開」の位置にして、更にスタータグリップを引き始動させてください。すぐにエンジンが始動したときは、チョークレバーを除々に「開」に戻してください。
- エンジンが始動したら、作業前に２～３分間低速で運転して、暖機してください。

エンジンが暖まっている場合の始動

- 機械を背負ったままで始動できます。
- チョークは使わないでください。
- チョークレバーが「開」の位置になっていることを確認してください。「閉」の位置になっていたら「開」の位置にします。（図２参照）
- スロットルダイヤルを［低速］位置にしてください。（図３参照）
- スタータグリップを２～３回引き、エンジンを始動させてください。
- 約４回スタータグリップを引いても、エンジンが始動しないときは、エンジンが冷えている場合と同じ方法で始動してください。

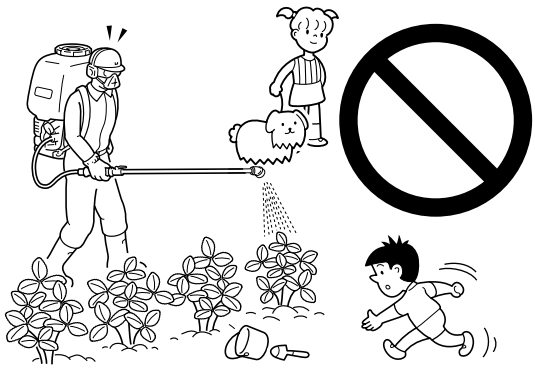
エンジン停止

- **スロットルダイヤルを[低速]位置にし、エンジンをアイドリング（低速回転）状態にしてください。**（図３参照）
- ストップスイッチを押してください。
- 緊急の場合は、直ちにストップスイッチでエンジンを停止してください。
- エンジンが停止しないときは、チョークを閉じてください。エンジンは失速し停止します。

機械を再び使用する前に、お買い求めの販売店にストップスイッチの点検と修理を依頼してください。

長期に機械を使用しないときは、必ずスパークプラグキャップを抜き、エンジンが始動しないようにしてください。（図２参照）

図１



噴霧作業

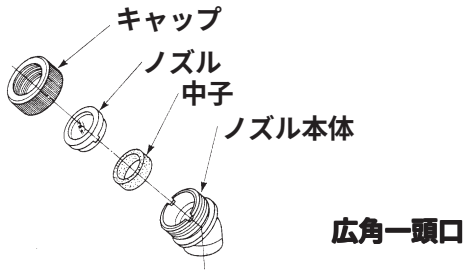
傷害事故を防止するため

- 薬液を被ることのないよう､風の強い日や雨の日は機械を使わないでください。
- 作業を始める前に､風向きをみてください｡周辺にドアや窓の開いている家､自動車､ペット､子供､あるいは薬液による傷害を起こすものがあるときには、薬液を噴霧しないでください。
- 噴霧は、風下に向かって行なってください。
  薬液の分散による損失を少なくして薬液の噴霧効率を高めるため、風のない温度が安定している朝、または夕方を選んで作業してください。
- 薬液噴霧作業中は喫煙、飲食をしないでください。
  農薬を吸引したり､食べ物に付着した農薬が体内に入る恐れがあります。
- 噴霧作業終了後、薬液や機械の後かたづけが終わったら､手､顔など外部にさらされた場所を石けんでよく洗い､うがいをし､入浴をして全身をよく洗ってください。作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。
- 薬液噴霧の後は飲酒をひかえてください｡農薬を吸引した場合、体内の酵素の働きが低下します。このようなときにアルコールを飲むと､更に酵素の働きが低下し、疲労の回復が遅くなります。

エンジンの操作

- ノズルコックは噴霧作業を始めるまで必ず閉じておきます｡薬液系統に漏れがないか､接続状態を確認してください。
- 暖機運転が終わってからスロットルダイヤルを高速側に回してエンジン回転を上げ、ノズルコックを開いて作業に入ります。
- ハウス内噴霧の際は本機を屋外に定置してご利用ください｡室内でのエンジン運転はしないでください。

図２



ノズル

付属の標準ノズル以外のノズルもご利用いただけますが､吐出圧力と吐出量を標準のものと合わせてください。

標準ノズル

ノズル圧力	ノズル吐出量
0.8 MPa	1.2 L/min

点　検・整　備

⚠ 注　意

点検・整備をする前に必ずエンジンを停止し、冷えた状態でスパークプラグキャップを外して作業してください。（１２ページ図２参照）

整備の目安

重　要

年単位および月単位の整備に要する日数間隔については実際の使用と経験から判断してください。

● 製品を調子良く、安全に使用するために定期的に点検・整備をしてください。

整　備　箇　所	整　　備	掲載ページ	使用前	毎　月	毎　年
エアフィルタ	点検 / 交換	15	●		
燃料フィルタ	点検 / 交換	15		●	
燃料パイプ	点検	14		●	
スパークプラグ	点検 / 清掃と調整 / 交換	15		●	
キャブレタ	点検	16			●
シリンダフィン	点検 / 清掃	15	●		
マフラ	点検、増し締め / 清掃	15	●		
リコイルスタータ	点検 / 清掃	3,14	●		
燃料系統	点検 / 修理	14	●		
ネジ、ボルト、ナット類	点検、ネジ類の増し締め / 交換	―	●		

重　要

・作業が終了したら、本機をよく清掃し常に最良の状態に点検・整備をしておくことが、次回の噴霧作業を順調に進めるのに最も大切なことです。
・使用後は必ずエアフィルタを清掃してください。
・燃料フィルタが汚れているとエンジンがスムーズに始動しなかったり、エンジン性能が低下したりします。
・燃料タンクは常に清掃しておきます。燃料タンクにゴミや砂などが入らないようにしてください。燃料フィルタ取付け時には、燃料フィルタが燃料タンクの底面に届いていることを確認してください。
・スパークプラグは締付け過ぎないようにしてください。
・除草剤噴霧にご使用のあと一般防除作業にご使用になるときは、除草剤の残液を完全に排出して薬液タンクほか薬液系統を充分に清水で洗ってから作業してください。
・ご不明の点については、お買い求めの販売店にご相談ください。

点検要領

リコイルスタータの点検　（分解禁止）

・ スタータグリップが軽く引けない場合、エンジン内部の故障ですので、分解せずにお買い求めの販売店へご相談ください。

燃料パイプ、燃料グロメット、燃料タンクガスケット

・ ご使用前に燃料を補給した後、燃料パイプ、燃料グロメット、キャップ周辺から燃料の漏れ、にじみがないことを確認してください。
・ 燃料の漏れ、にじみがある場合は、火災の危険がありますので、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に点検、交換を依頼してください。
・ 燃料パイプ、グロメット、ガスケット類を取付け、取外しするときは、傷をつけないように、先端が鋭利な工具類は使用しないでください。また、取付け後は各部から燃料の漏れ、にじみがないことを必ず点検してください。

図１

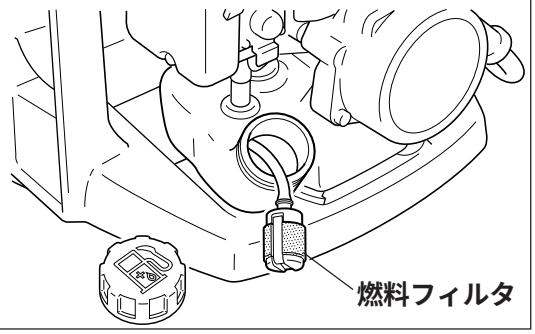


図２

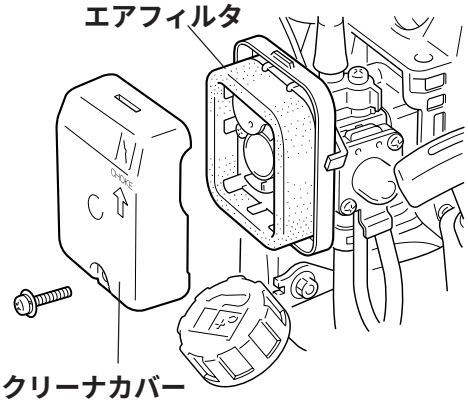


図３

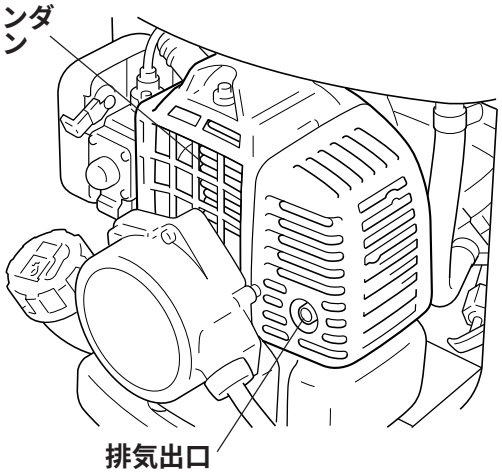
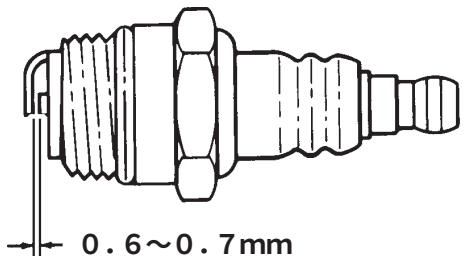


図４



燃料フィルタの交換

- 燃料タンクキャップを外します。
- 針金などを使用して、燃料タンクの給油口から燃料タンク内にある燃料パイプ（ゴムパイプ）を引き上げます。
- 燃料パイプから古い燃料フィルタを取外し、新しい燃料フィルタを取付けます。（図１参照）
- 燃料タンクは常に清掃しておきます。燃料タンクにゴミや砂などが入らないようにしてください。
- 燃料フィルタ取付け時には、燃料フィルタが燃料タンクの底面に届いていることを確認してください。

エアフィルタの清掃

- チョークを閉じてから、エアクリーナカバーを外してエアフィルタを取外します。（図２参照）
  エアフィルタの汚れ具合を点検し、汚れがひどい場合は中性洗剤を使って洗ってください。洗剤を使用した場合は、充分に水洗いをし、よく乾かしてください。
- エアフィルタを完全に乾かしたのち、取付けてください。

マフラとシリンダフィン

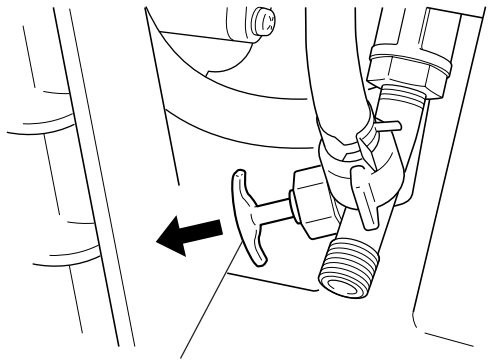
- マフラのゆるみはガス漏れ、タール漏れを起こし、思わぬ事故につながりますので、増し締めしてください。
- 排気出口のカーボンを取除いてください。
  エンジンの性能を一定に保つため、この作業は定期的に実施してください。
- シリンダフィンは常に清掃してください。
  シリンダフィンの間に物が詰まると、エンジンがオーバーヒートする恐れがあります。木の棒などを使って、芝、泥、葉、その他のゴミ屑をシリンダフィンの間から取除いてください。
  シリンダフィンは薄くて割れやすいので、清掃するときは金属の棒などで衝撃を与えないようにしてください。

スパークプラグ

- 付属のソケットレンチ（１９mm）でスパークプラグを外してください。
- 電極が減っているとき、すき間不良のとき（正しいすき間は０．６～０．７mm＝ハガキ３枚分の厚さ)、また電極の周囲にオイルや堆積物が付いているときは、新しいプラグと交換してください。（図４参照）
- スパークプラグは、付属のソケットレンチでしっかり締付けてください。
  参考：締付けトルクは１５～１７N・m
  (150～170 kgf・㎝)です。

● 発火テストは、シリンダのプラグ穴の上ではしないでください。

図１

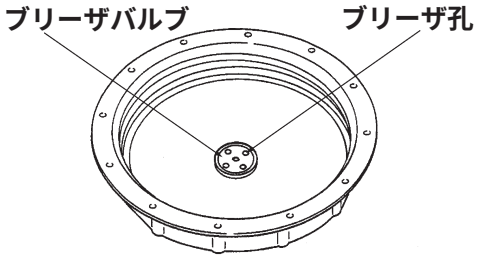


ポンプドレンつまみ

薬液タンクの清掃

- その日の作業が終わったら、清掃してください。
- 薬液タンク内の残液はタンクドレンから排出します。
- 薬液タンクに水を入れ、エンジンを始動してください。
- ノズルコックを開いて２～３分間ノズルで噴射し、噴霧装置の内部を清掃してください。
- 洗浄後は薬液タンク内の残液を完全に排出します。
- ポンプドレンつまみを図１矢印の方向に引張りポンプ内の残液を完全に排出します。
- 機械に付いた薬液を洗い流してください。

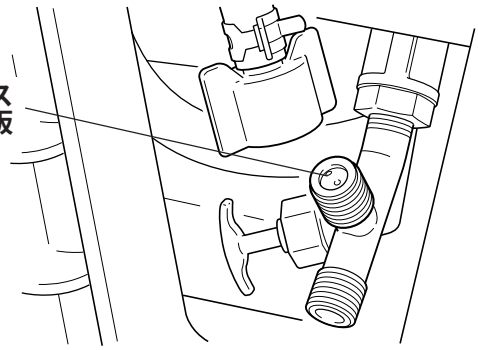
図２



薬液タンクブリーザ

- ブリーザバルブとブリーザ孔は定期的に清掃してください。
- ブリーザバルブのシールの不良は、薬液の漏れを引き起こします。
  ブリーザ孔の詰まりは、吐出圧力の低下、あるいは薬液タンクの破損を引き起こす原因となります。

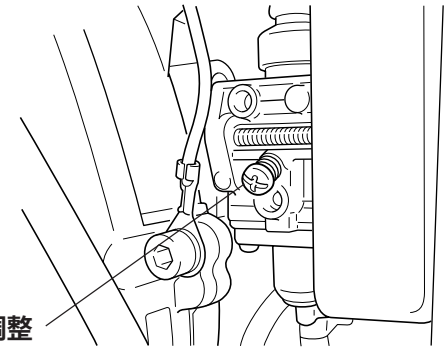
図３



バイパスノズル板

- 薬液がタンク内でよく“かくはん”されないときはバイパスノズル板をきれいにしてください。
  水和剤などご使用の際は特にご注意ください。
  （図３参照）

図４



キャブレタ

- 必要でない限り、キャブレタを調節しないでください。
- 低速回転の調整が必要なとき、キャブレタのスロー調整ネジを回してください。（図４参照）
  反時計方向に回すと、エンジン回転は低下します。
- 調整してもエンジン回転不調の場合は、お買い求めの販売店へご相談ください。
- エンジンを長い間使わないときは、燃料タンクとキャブレタから燃料を抜いてください。

故障診断と対策

故障内容			原因	対策
エンジンが始動困難、または始動しない				
クランク軸が回転する →	キャブレタの燃料 →	キャブレタに燃料がない	●燃料フィルタの目詰まり ●燃料系統の目詰まり ●キャブレタの不良	●清掃 ●清掃 ●販売店へ
↓	シリンダの燃料 →	シリンダに燃料がない	●キャブレタの不良	●販売店へ
↓	→ ↓	プラグが燃料で湿っている	●空燃比（空気と燃料の混合比）が濃すぎる	●チョークを開く ●エアフィルタ清掃／交換 ●キャブレタ調整 ●販売店へ
↓	プラグコードの先端で発火する → ↓	プラグコードの先端で発火なし	●電気的故障	●販売店へ
↓	スパークプラグは発火する → ↓	スパークプラグが発火しない	●電極の隙間が正しくない ●カーボン（炭素）の堆積 ●燃料による汚れ ●スパークプラグの不良	●0.6～0.7mmに調整 ●清掃／交換 ●清掃／交換 ●交換
クランク軸が回転しない	↓		●エンジン内部の故障	●販売店へ
エンジンは始動する	持続しない、または加速不充分 ↓		●エアフィルタの汚れ ●燃料フィルタの汚れ ●燃料通路の詰まり ●スパークプラグの不良 ●キャブレタの不良 ●シリンダフィンの詰まり ●排気口／マフラの詰まり	●清掃／交換 ●交換 ●清掃 ●清掃、調整／交換 ●調整 ●清掃 ●清掃
↓	薬液ポンプの圧力が上がらない（細かい霧にならない） ↓		●ホースに穴や裂け目がある ●本機に適当でないノズルを使用している（吐出量の大きいノズル） ●バイパスノズル板の詰まり	●交換 ●交換 ●清掃／交換
↓	薬液が全く出ない		●ゴミ・異物による薬液系統の完全な詰まり ●薬液タンクに液がない ●薬液ポンプの破損	●清掃 ●補給 ●修理

保　　管

⚠ 警　告

燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のある場所に保管しないでください。

重　要

この取扱説明書は、いつでも読めるよう保管してください。

長期保管（６０日間以上）

機械を長期間（60日以上）にわたって保管する場合は、以下に示す保管の際の整備を必ず実施してください。

１．薬液タンクとホースを清水で清掃してください。
タンク内の残液はドレンキャップを外して排出してください。
ポンプドレンつまみを引張りポンプ内の残液も排出してください。

２．本書に定められた定期的な注油と点検をしてください。機械の全ての部分を検査し、調節してください。スクリュ、ナット類が締まっているか確認してください。ゆるんでいる場合は増し締めしてください。

Ａ．必要ならば、掃除をし、修理をしてください。
Ｂ．サビ止めに金属部分には薄く油を塗ってください。
Ｃ．ホースとパイプを取外してください。

３．燃料タンクを完全にカラにしてください。
キャブレタ内の燃料も排出してください。

４．スパークプラグを外し、その取付穴から大さじ１/２杯の、新しくきれいな２サイクルエンジンオイルをシリンダに入れてください。

Ａ．スパークプラグの取付穴の上にきれいな布を掛けてください。
Ｂ．スタータグリップを２、３回引いて、エンジンオイルをエンジンに行き渡らせてください。
Ｃ．スパークプラグ取付穴からピストンの位置を確認してください。スタータグリップをゆっくり引き、ピストンが最も上のところで止めるようにしてください。

５．スパークプラグを取付けてください。
（スパークプラグキャップは接続しないでください。）

６．機械を乾かし、子供の手の届かないホコリのない場所に保管してください。

仕　　様

項　　目	単 位	SHR15B	SHR10B
質量（ホース類、燃料除く）	kg	５．６	５．４
容量 燃料タンク	L	０．５	
薬液タンク	L	１５	１０
外形寸法（ホース類除く） 長さ×幅×高さ	mm	３１０×３７５×５５０	３１０×３７５×４９０
エンジン 形式 排気量 最大エンジン回転数（締切時） アイドリング回転数 キャブレタ形式 点火方式 スパークプラグ 始動方式 動力伝達方式	 mL r/min r/min	 空冷２サイクル単シリンダ ２１．２ ７，０００ ２，９００～３，３００ ＴＫ循環式 フライホイールマグネト：ＣＤＩ方式 ＮＧＫ　ＢＰＭ７Ｙ リコイルスタータ iスタート 背引式 自動遠心クラッチ	
燃料混合比		[レギュラーガソリン：２サイクルエンジンオイル] ・共立純正２サイクル専用オイル ＪＡＳＯ性能分類　ＦＣ　　[５０：１] ・２サイクルエンジンオイル ＪＡＳＯ性能分類　ＦＢ、ＦＡ　[２５：１]	
薬液ポンプ 形式 散布量（標準装備） 圧力（締切）	 L/min MPa(kgf/cm²)	 渦流式 ８．０ ０．８　（８）	
ノズル		広角一頭口	
ホース 内径 長さ	 mm m	 ７．５ １．２	
付属品 ホース・ノズル関係 ソケットレンチ（１０×１９） 防除マスク 取扱説明書	 個数 個数 個数 個数	 一式 １ １ １	

＊ この仕様は予告なしに変更することがあります。

株式会社 共立

東京都青梅市末広町1-7-2　〒198-8711　☎0428-32-6181

北海道共立エコー株式会社
札幌市厚別区大谷地東1-2-20　〒004-0041　☎011-891-2249(代)

東北共立エコー株式会社
仙台市若林区卸町東5-1-50　〒984-0002　☎022-288-0511(代)

両毛共立エコー株式会社
宇都宮市御幸本町4736-7　〒321-0983　☎028-661-0431(代)

東部共立エコー株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-1091(代)

中部共立エコー株式会社
愛知県西春日井郡西枇杷島町宮前町1-39　〒452-0031　☎052-502-4111(代)

西部共立エコー株式会社
岡山市藤田566-159　〒701-0221　☎086-296-5911(代)

九州共立エコー株式会社
大野城市白木原5-3-7　〒816-0943　☎092-573-5361(代)

エコーレンテックス株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-6777(代)

◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-004　88 0
X750 604-540 0